

第4学年社会科学学習指導案

日 時 令和5年11月14日(火) 公開授業 I

児 童 男子14名 女子12名 計26名

指導者 菅原 菜美

1. 単元名

地域で受けつがれてきたもの (小学社会4 教育出版)

受けつがれる伝統や文化 (あたらしい郷土岩手 岩手県社会科教育研究会)

2. 単元の目標

地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解し、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにするとともに、地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養い、地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。 ② 県内の伝統や文化について、歴史文化館などを見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表や新聞などにまとめている。	① 文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに問いを見い出し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。 ② 地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを適切に表現している。	① 県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことをもとに、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを社会生活に生かそうとしている。

4. 単元について

(1) 教材観

本単元は、岩手県の年中行事や文化財について、歴史的背景や現在に至る経緯、保存や継承の取組などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、岩手県内にある文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習課題を追究・解決し、学習したことを基に、地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養うことがねらいである。

さんさ踊りは、盛岡にたくさんの人が集まるような観光イベントにしようと、たくさんの人が大切に受け継いできた行事である。また、新型コロナウイルスの影響で通常開催ができなかった期間も魅力を発信するなど、様々な人の協力があり守られてきたという背景がある。そのため、このねらいを達成させるために、この教材を取り扱う価値があると考えた。

(2) 児童観

本学級では、意欲的に学習に参加したり、調べ学習をしたりする児童が多く、調べたことを分かりやすくまとめ、すすんで発表するようになってきている。また、調べ学習では、自分の予想をもとに、教科書や副読本、地図帳などで調べ、ノートにまとめる力がついてきた。しかし、そこから人々の思いや願い、努力に気づき、それに対しての自分の考えを根拠をもって表現する力については、十分とは言えない。調べて分かった事実を比較・関連付け・総合していくことができるように手立てを講じる必要がある。

(3) 指導観

本単元では、年中行事について、盛岡地区で昔から伝わる地域の人々が受け継いできたさんさ踊りを取り上げる。その中で、「時期や時間の変化」「事象と人々の相互関係」を中心に見方・考え方を働かせて学習していきたい。調べる過程では、歴史文化館への見学やさんさ踊り実行委員会の方へのインタビュー、パンフレット、新聞記事、インターネットなどを使って調べさせ、関わる人々の働きを多角的に追究することができるようにする。さんさ踊りが「いつ」「どこで」はじまったのか予想を立てながら考え、その長い歴史の中で今まで関わってきた人々の思いや願いを感じ、自分の考えを伝えられるようにしたい。最後には、自分が調べたことや感じたことを新聞を使って表現し、今までの歴史や社会的事象を関連付けてまとめることができるようにする。

5. 研究主題との関わり「自分の考えをもち、深め、伝え合う子どもをめざして」

本単元とNIE

NIEの視点④教科等の学びを身近な生活や社会につなげることができる。
 ②最新で信憑性の高い情報を取り入れることができる。
 ③読む力・書く力が高まり、多様な表現方法を身に付けることができる。

本単元では、新聞に掲載されたさんさ踊りの記事を見て、さんさ踊りを盛り上げるためにたくさんの人が関わっていることに気付かせたい。また、さんさ踊りを行うにあたり、踊り手だけでなくさんさ踊りを実行する人や観客など、様々な人の思いや願いがあることを新聞から読み取らせていきたい。また、学んだことを新聞にまとめる活動を通して、考えをもち、伝える力の育成につなげていきたい。視点④に関しては、NIEタイムを使い、新聞にまとめる。

6. 指導計画

時	主な学習内容	評価の観点と方法
1・2	<ul style="list-style-type: none"> さんさ踊りがどのようなお祭りであるか資料、年表からイメージをもつ。 地域の伝統行事の写真などを見て、気になったことや調べてきた文化財や年中行事について振り返り疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 <p style="text-align: center;">NIE 視点①・②</p> <p style="text-align: center;">盛岡さんさ踊りのような地域の年中行事は、どのように受けつがれてきたのだろう。</p>	<p>【態度】 発言・ノート 発言やノートの内容から「岩手県の年中行事や文化財について興味・関心をもち、進んで調べようとしているか」を評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 発言・ノート 「さんさ踊りの様子を見て感じたことや考えたことをもとに問いを見出し、学習問題として表現しているか」を評価する。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> さんさ踊り実行委員会の人のお話から、さんさ踊りの始まったころの様子を捉える。 踊りに込められた願いやさんさにかかわる伝説について調べる。 <p style="text-align: center;">NIE 視点③・④</p>	<p>【態度】 発言・ノート 「さんさ踊りがどのように継承されてきたかについて予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしているか」を評価する。</p>
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> さんさ踊りが発展してきた背景に着目し、さんさ踊りの発展には、踊り手の努力以外にも見物客や会場設営に携わる人々の支えがあることを理解する。 <p style="text-align: center;">NIE 視点①・②</p>	<p>【思考・判断・表現】 発言・ノート 「さんさ踊りは、様々な立場の人たちが願いをもち、努力して継承してきたことについて考え、表現することができているか」を評価する。</p>

5	<p>・盛岡さんさ踊りを保存・継承している人たちが、昔から伝わる伝統を未来につなげたいと願いながら取り組みを行っていることについて考え、表現することができる。</p> <p style="text-align: center;">NIE 視点①・②</p>	<p>【知識・技能】 発言・ノート 「さんさ踊りの継承や発展には、様々な人々の工夫や努力があったことを理解しているか」を評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 発言・ノート 「学習問題を確認し、さんさ踊りがどのようにして長い間受け継がれてきたのかについて考えたことを表現しているか」を評価する。</p>
6	<p>・県内の知っている文化財や年中行事を发表或しパンフレットなどで調べたりして、それらの場所を地図で確かめる。そして、それらについてさらに調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <p style="text-align: center;">NIE 視点①・②</p>	<p>【思考・判断・表現】 発言・ノート 「しし踊りについて知りたいことをもとに問いを見出し、学習問題として表現しているか」を評価する。</p> <p>【態度】 発言・ノート 「しし踊りがどのように継承されてきたかについて予想を話し合い、主体的に追究しようとしているか」を評価する。</p>
7～8	<p>・しし踊りがどのようなものかについて、地域の方から話を聞いてどんな思いで踊っているかを考えたり、年表や資料を使って調べたりする。</p> <p style="text-align: center;">NIE 視点①・④</p>	<p>【知識・技能】 発言・ノート 「しし踊りには長い歴史があり、それを守り伝えていくために人々が様々な努力をしていることを理解しているか」を評価する。</p>
9～10	<p>・調べてきた文化財や年中行事について振り返り、歴史や人々の思いや願いについて新聞にまとめる。</p> <p style="text-align: center;">NIE 視点①・④</p>	<p>【知識・技能】 発言・ノート 「しし踊りを守り伝えるためには、農村舞台の保存も大切であり、そのために様々な取り組みが行われていることを理解しているか」を評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 発言・ノート 「しし踊りを保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを適切に表現しているか」を評価する。</p>

7. 本時の指導

(1) 本時のねらい

さんさ踊りに関わる人々の取組に着目し、様々な立場の人々の継承に向けた願いや努力について考え、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の指導

段階	主な学習活動	主な発問と指示 予想される児童の反応	指導上の留意点 ◇評価(評価規準)
導入	<p>1 さんさ踊りの観光客数の推移から、気づきを出し合う。</p> <p>2 課題を確認する。</p>	<p>○昔に比べて、2019年の来場者数はどうなっているでしょう。</p> <p>○なぜこんなに人数が増えたと思いますか。</p>	<p>○さんさ踊りの写真、「さんさ踊りの観光客数」の推移のグラフを提示する。</p>
	<p>なぜさんさおどりは大きくなりながらつづいてきたのだろう。</p>		

<p>展開</p>	<p>3 なぜたくさんの方が集まるようになるまで、さんさ踊りが続いてきたか、取組や努力を考える。</p> <p>4 自分で調べたことをグループで交流する。</p> <p>5 どんな思いがあって取組を続けてきたか考え、全体で交流する。</p>	<p>○さんさ踊りを大きくするために、どんな取組をしていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作った ・せん伝をたくさんした ・パンフレットを用意した <p>○それぞれの取組は、誰がやったのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんさ踊り実行委員会 ・見る人 ・踊り手 <p>○どんな取組があったか、調べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所の資料○ページから、さんさ甲子園を行ったことが分かりました。 ・岩手日報の○日の記事から、さんさ踊りを沖縄でも披露して宣伝したことが分かりました。 <p>○それぞれの取組には、どんな思いがあったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんさ踊りを有名にしたい ・みんなで踊るのは楽しい <p>○さんさ踊りが大きくなるには、どうなるといいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの立場の人も、みんなで盛り上げたいという思いをもつ ・みんなが一つになるといい 	<p>○新聞記事やVTR、副読本を活用させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇【思考・判断・表現】</p> <p>さんさ踊りがどのようにして発展したかについて、資料を基に考えたことを表現している。</p> </div>
<p>終末</p>	<p>6 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>振り返りの記述</p> <p>さんさおどりが大きくなったのは、さんさおどり実行委員会・見る人・おどり手が「さんさおどりを盛り上げたい」という思いで一つになり、様々な努力をしてきたからである。</p> </div> <p>7 学習の振り返りを発表する。</p>		

8. 板書計画

